健康のひろば

地元の医師がアドバイス

—31—

小さい発疹でひりひり

—唇にぶつぶつと小さな赤い発疹ができ、水泡になってひりひり痛むのですが、友達からヘルペスかも知れないと言われました。原因や治療法を教えて下さい。

（会社員・女性・二十八歳）

—☆—

質問にある症状からは、御指摘の通り、口唇ヘルペスが最も考えられます。

ヘルペス（疱疹）とは、小水疱（小さいみずぶくれ）が集って生じる皮膚病で、ウイルスの感染によって生じます。

ヘルペスウイルスには、数種類あり、みずぼうそう（水痘）や帯状疱疹などを生じる型もありますが、口唇ヘルペスは、単純ヘルペスウイルスの感染によって生じ、いわゆる、ヘルペスとは、この単純ヘルペス（単純疱疹）を指すことが多いです。

単純ヘルペスウイルスは、口内炎、ひょう疽（手指に感染）、角膜ヘルペス、脳炎なども起こしますが、口唇ヘルペスが、最多で、次いで陰部ヘルペスの順です。

また、単純ヘルペスウイルスは1型と2型があり、それぞれで、好発部位も違います。

今回の口唇ヘルペスは、単純ヘルペスウイルス1型によっておこり、多くは成人になるまでに感染し、体内に入りこんだウイルスは、顔の奥の神経の根元に潜んでいて、普段は、症状を起こさず、冬眠状態ですが、疲労、かぜ、紫外線、ステロイドの使用による免疫の低下など、体の抵抗力が弱ると活動をはじめ、皮膚や粘膜に悪さをし、ピリピリ感、痛みなどの異和感→赤み（紅斑）→みずぶくれ（小水疱）→ただれ（びらん）→かさぶたといった症状を起こします。多くの場合、1～2週間で落ち着きますが、同じところに繰り返して生じる（再発する）のが特徴です。

では、治療はどうしたらよいのでしょうか？軽症の場合、抗ヘルペス薬の外用だけを行うこともありますが、全身投与の方が効果は高く、通常、内服を要し、重症例や免疫不全患者では点滴を行うこともあります。ただし、現在発売されている薬はウイルスの増殖を抑えるだけで、ウイルスを体から完全に追い出す確実な方法は無く、ウイルスをだましだまし抑えて、うまくおつきあいしていただく形になります。細菌の二次感染を伴うこともあり、抗生物質の全身投与または外用を併用することもあります。また、アトピー性皮膚炎の方では、カポジ水痘様発疹症といって、重症化する場合があり、注意が必要です。

日常生活の注意点としては、①再発の予防—無理のない、規則正しい生活を心がけ、疲労、かぜ、強い日光にあたることなどの刺激をなるべくさけましょう。②接触に注意—多くは接触感染（一部、くしゃみなどで飛沫感染）するので、水疱になるべく触らないようにして、手洗いをこまめにし、可能なら、マスク、ガーゼなどで、患部を覆い、他人にうつさないようにして下さい。また、入浴はシャワーなどで清潔にして、細菌などの二次感染にも注意しましょう。③早目の治療再発をくり返す人では、水疱がでる前に、異和感、ピリピリ感、痛みなどの前兆が現れることがあり、その段階で抗ヘルペス薬を使えば、症状は軽くてすむことが多いです。

最近では市販の外用薬も発売になっています。ただし、帯状疱疹やとびひ、毛のう炎、自己免疫性の水疱症などとまぎらわしいこともあり、早めに皮膚科を受診されることをお勧めいたします。

（名寄市立総合病院皮膚科・橋本任拝）